

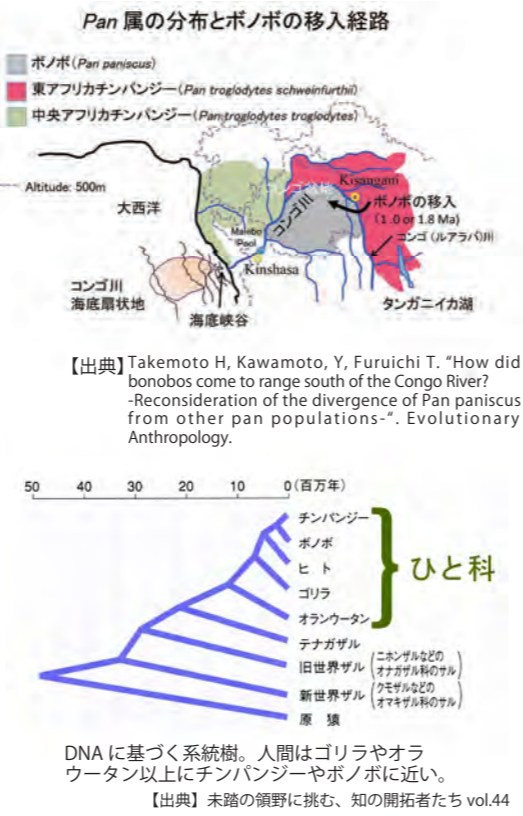
Keyword : Bonobo

表紙に掲載している榎垣GPの取材のなかで、道徳の話から”ボノボ”の話題が出たので、今月はヒト科チンパンジー属に分類される霊長類ボノボについて記載致します。

まず、ボノボの存在をご存知のない方のために簡単に紹介しますと、ボノボは1928年に、生息地であるアフリカではなく、ヨーロッパで初めて発見されました。従来ヒト科に属するゴリラ、チンパンジー、ボノボ、ヒトの共通祖先は、アフリカ中央部に広がる熱帯雨林で進化したと考えられていました。しかし、中央部のコンゴ盆地を取り囲むコンゴ川の成立が、従来考えられてきた180万年〜260万年前ではなく、既に3,400万年前には成立しており、その南側の熱帯林にはヒト科の共通祖先はいなかった可能性が高いことが分かってきました。ボノボは、今から100万年あるいは180万年ほど前に起こったアフリカの厳しい乾燥期に、一時的に浅くなったコンゴ川を渡ってコンゴ盆地に侵入し、そこで独特の進化を遂げたと推測されています。ボノボはチンパンジーともゴリラとも共通の祖先から進化したのであり、我々人間は、チンパンジーとボノボのどちらにも近いことがわかっています。数学的に見ると、人間と彼らはDNAの98.8%を共有しており、人間は、ボノボにあってチンパンジーにはない遺伝子と、チンパンジーにはあってボノボにはない遺伝子の両方を持っていることがわかっています。地区開発や、たび重なる内戦により生息地が脅かされ、現在ではボノボの生息数は減少の一途をたどっています。体は痩せ型。オスの身長は80cmほどで体重は40kg程度です。メスはオスよりも身長が10cmほど低く、体重も30kg程度です。チンパンジーと一見似ているため比較されることも多いのですが、彼らはチンパンジーに比べて上半身が小さく脳容量も小さいです。小学校低学年の子どもの程度の知能を持つといわれている彼らは、長年研究者の間でも注目を集めていて、日本では霊長類学者でボノボ研究が専門の加納隆至のチームが、20年以上にわたりコンゴの赤道州ワンバ地区で直接観察による調査を続けています。ボノボはチンパンジーとは驚くほど対照的に平和を好む生き物で、チンパンジーと同様に餌を取るために道具を使う知能は持ち合わせていますが、周りと争って道具を使うチンパンジーに対して、ボノボは争いを避けるためにあまり道具を使いません。

今回、ボノボが話題になったキッカケとなった「道徳」について、フランス・ドゥ・ヴァール著の1冊の本(写真)をご紹介します。ドゥ・ヴァール教授は、1948年オランダ生まれ、エモリー大学心理学部教授、ヤークス国立霊長類研究センター所長で霊長類の社会的知能研究における第一人者で、長年膨大なフィールドワークや実験を積み重ねてきた学者です。この著書の中で、一見まったく関係性を持たない「人間の道徳性」と「ボノボの生態」という二つの事柄について、人間だけが持っていると考えられていた道徳性を彼らの生態に当てはめ、彼らの世界に存在する秩序と道徳性から、その起源を導いています。チンパンジーで観察される殺し合いは、殆どが縄張り争いで起こっているのに対し、ボノボは縄張りの境界では交尾をします。近隣のボノボとはよそよそしくしていることもあります。対峙が始まると、まもなくメスが相手側の縄張りへ駆け込んでいってオスと交尾したり、他のメスに背乗り(マウンティング)したりするのが観察されます。交尾と戦争を同時にするのは困難なので、辺りにはたまち社交の場と化し、締めくくりには、違う群れの大人どうしがグルーミングをし、子供達と一緒に遊ぶという状況に至ります。人間が挨拶するのに手を使うのに対し、ボノボは”生殖器で握手する”と表現されています。その行為は、メス同士、オス同士でも日常的に起こりますが、父親と娘、母親と息子といった組み合わせは唯一起こりません。このような行動規範は全てタブーなど抜きで守られています。こういった報告は、1990年以後のもので、その大部分は、先の加納隆至の観察に拠るものものです。ボノボの間で死者の出るような攻撃的行為を裏付ける事例が皆無であるのに対し、チンパンジーでは大人のオスが他のオスや赤ん坊を殺したり、メスが赤ん坊を殺したりする事例が多数見られます(野生において)。それは人間でも同じく虐待や殺しは起こります。しかし、こうした事態は、ボノボの社会では一切起こりません。それは、メス優位の社会であることと、メスが不特定多数のオスと交尾することで、大人のオスは群れのどの子の父親であってもおかしくないからです。血を分けた我が子を殺すのは最悪であることを彼らはよく知っています。また、協力行動においてもボノボとチンパンジーには大きな違いがあります。例えば、協力すれば引き寄せられる台に食べ物を載せると、チンパンジーの方は競争が起こりますが、ボノボは性的な接触を行い、一緒に遊び、仲良く並んで食べ物を分け合います。ボノボは性的行動が挨拶や争いの解決や食糧分配などを含めた非生殖的機能を果たしていると考えられています。

道徳性が人間や文明の誕生とともに忽然と現れたものでないことは明らかですが、その基盤は共感や思いやり、他者やコミュニティへの気遣いであり、社会的な動物が集団での暮らしを円滑に行い、生存と繁殖の可能性を高めるのを助けるものであるということ、人間に連なる過去と動物たちに見出したドゥ・ヴァール教授の発想はともユニークです。最後に、教授が2011年に公演した内容がTEDにUPされています。霊長類や他の哺乳類達の面白い行動実験が紹介されていますので是非ご覧ください。→「TED ドゥ・ヴァール」で検索教授は、こんなことも言っています。人間は「双極性類人猿」であると。良い時はボノボのように親切になり、悪い時はチンパンジーのように横柄で暴力的になる。さて、あなたはどちらの形質を多く保有しているでしょうか？少なくとも、あおり運転や車からエアガンを乱射するような輩は、個人的にはチンパンジー以下だと思えます。



『道徳性の起源：ボノボが教えてくれること』 フランス ドゥ・ヴァール (著) 紀伊國屋書店



フランス・ドゥ・ヴァール：良識ある行動をとる動物たち

2019 vol.088 9 Legend

榎垣俊幸がモノ申す! ⑥
これからは分かち合いの時代

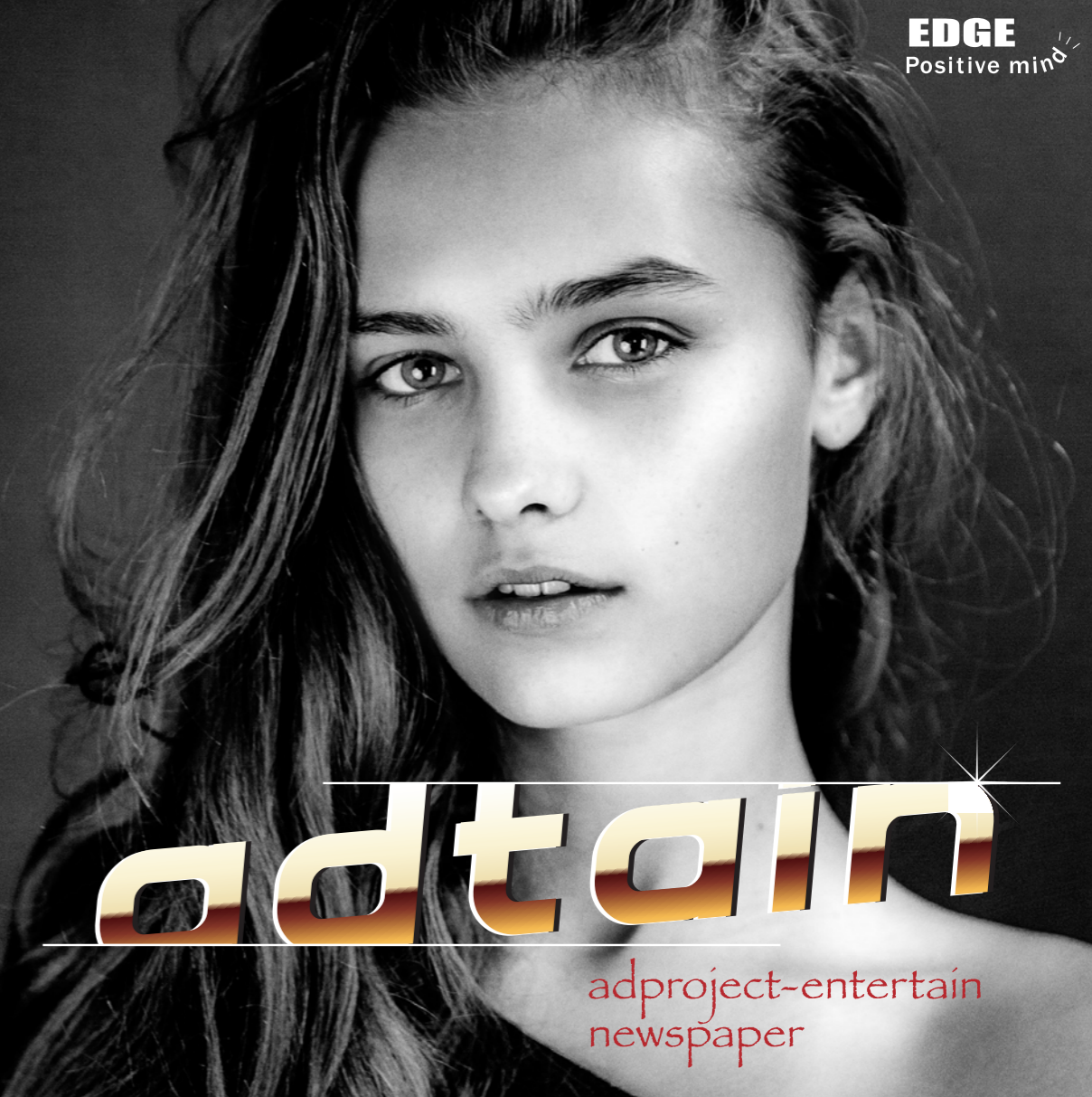


ゼネラルプロデューサー 榎垣 俊幸

「分かち合い」を拒否するのは人類の「業」?

前回にも話した「分かち合い」の精神についてですが、分かち合いの社会に何でならないのか？ それは、分かち合いの社会が出来たとしても、たった一人の欲張りの出現で崩壊してしまうため、実現に至らないからです。分かち合いの社会にしようとする、必ず「どうして俺のものを他人に分けなくてはならないんだ」と、もっともらしく権利を盾にして猛反対する人間が出てきます。確かに自分のものを他者に分けるのがイヤだという人は大勢いるでしょう。でも、それは本当に「自分のもの」なのでしょうか？ 本当に自分一人の力だけで手に入れたものなのでしょうか？ 例えば、それが食べ物で農産物であれば、汗水流して作物や牛や豚を育てた生産者がいたからでしょう。また、それがお金なら、仕事や商売で繋がった人たちのおかげであり、経営者なら一生懸命働く社員たちがいるからでしょう。多分、この世の中で、誰一人、誰の手も借りずに生活している民族ですら、共存する仲間や自然の恵みを受けているのです。それでも「自分のもの」と言い張り「分かち合い」を拒否する人が存在するのが、我々、人類の「業」なのでしょう。

今号で「ボノボ」というチンパンジーに分類される霊長類の特集が掲載されていますが、彼らの生態と社会性には、人類が見習うべき点が多々あるように思います。彼らの生息地で次のような実験が行われました。彼らの好物のサトウキビを山盛りにして通り道に置いておきます。やがて数匹のオスが近づいてきてサトウキビを手にしていきますが、それぞれ手に数本ずつ持って帰り、まず、子供や年寄り、そしてメスのところへ渡しに行くのです。そして残った1本を自分で美味しくように食べ始めるのです。決して必要以上のサトウキビを無



モデル：Ingel / Height:172cm B:79 W:59 H:86 事務所：ARTRICK ENTERTAINMENT (アートリック) http://artrick.com

adtainとは、adproject と entertain が融合した「おもてなし」のトピックス誌

理して持って帰ることはしません。同じ実験をボノボよりも人間に近いチンパンジーで行いました。すると、まず、山盛りのサトウキビを最初に発見したオスが、後から来た者を威嚇して「これは俺のものだ！」と言わんばかりに歯を剥き出して追い払います。それでも盗み取ろうとしたチンパンジーがいると襲いかかり殺し合いの様相で激しい争いを始めたのです。

この実験での比較を見て、どちらが人間扱いと考えさせられました。実際にボノボが生息するコンゴ共和国の集落に住む人間たちは、争うことをしない彼らを昔から尊敬し、彼らを教師として道徳観や社会性を見習ってきたといえます。ボノボがいない日本でも「情けは人の為ならず」といったような諺があります。仏教的ではありますが、「分かち合い」や「思いやり」の精神が含まれ、日本人が昔から人付き合いの矜持としてきた言葉です。

空気を吸うように分かち合うこと

現代では、「みんなで生きているんだ」という実感が無さ過ぎるのでしょうか。「自分だけが良ければいい」「今だけ良ければいい」という考え方がまかり通っているように思います。大企業や経済団体がむしろ「分かち合い」を拒否して、「儲ければ何をやってもい

T O M O K O O ' S R E C O M M E N D

今月のおススメミュージックはCosmo Sheldrake (コスモ・シェルドレイク) の『ザ・マッチ・マッチ・ハウ・ハウ・アンド・アイ』です。日本盤は去年の4月に発売されているのですが、来日公演が決まったのでご紹介します。ロンドンを拠点に活動するプロデューサー。約30もの楽器を演奏するマルチ・インストゥルメンタリストでもあり、アメリカ人ジャズ歌手ボビー・マクファーリンにNYでヴォーカル・インプロヴィゼーションを学ぶなど、独自の世界観を広げています。学校や音楽ワークショップ、地元で教壇に立ちながら、子供病院やホスピスのために楽曲制作を行っているそう。2015年のくるり主催の京都音楽博覧会で初来日し、今年11月にこのアルバムを引っさげての単独来日公演を行います。収録曲「Come Along」がiPhone XRのテレビCMに起用され、人気上昇。さらに、アメリカの人気アカペラ・グループ、ペンタトニックスがこの「Come Along」のカヴァーを発表したことで話題になったので、もしかしたら耳にしたことがあるかもしれないですね。ノスタルジックなメロディー中にある新しいサウンド。暖かく楽しく可愛らしい、でも少し寂しい感じ。フジロックみがあるなあ。くるりの岸田繁も「突如現れた”普通の”天才音楽家」と認めた彼の才能感じる音楽を是非聞いてみて下さい。☺

ご意見・ご感想は adtain@adproject.co.jp まで メールでお寄せください。 発行：株式会社エディープロジェクト 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-27-4

↑上のスペースを外部的にも開放致します。是非、寄稿をお願い致します。詳しくは、こちらまで→http://adtain.tokyo/contribution/

皆様の いいね！をお待ちしております。 facebook adproject 検索

もしくは、https://www.facebook.com/adproject.japan



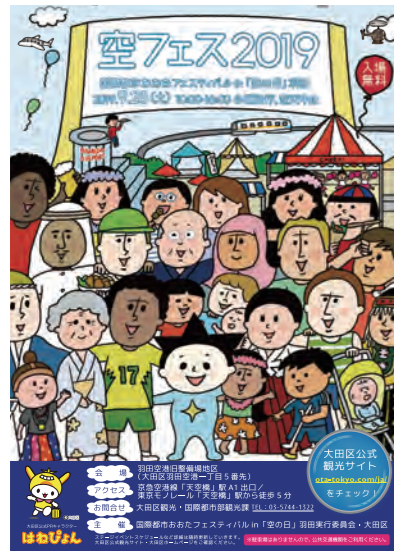
ASSOCIATE PRODUCER：黒川 和紀

- Event：空フェス
- Date：2019年9月28日(土)
- Place：羽田空港旧整備場地区

今年も「世界とつながるおた」を体感できる、国際色豊かなイベント「空フェス」が開催されます。羽田空港内で開催される「2019空の日フェスティバル」と同日開催となり、相互に連携した企画もあり、昨年以上にパワーアップします。「日本とおたの魅力エリア」では空にまつわる展示や体験、「世界の文化体験エリア」では世界各国・地域のPRブースが集まり、世界の文化を体験することができます。会場内には世界・日本各地のグルメ、お土産も大集合します。新しいお気に入りグルメに出会えるかもしれません！

ステージでは、元柔道日本代表の谷本歩美氏をゲストに迎えたオリンピアントークショーや、大田区観光PR特使として活躍しているシクラメンのライブパフォーマンスも必見です。内容は当日までのお楽しみです！

羽田空港の地元大田区にはまだまだ知られていない見どころや魅力が隠れています。是非この機会に大田区に遊びに来てください！



PRODUCER：松延 智明

- Event：世界中、どこでも撮影・取材をします！
- Date：2019年9月

本日の移動距離、1,800km 超予定。今日は、午後からインフラ系企業のお客様からの依頼で撮影・取材のため、まずは朝一で東京から博多に向かいます。細かい内容は、お客様との守秘義務契約があるのでお伝えできず、申し訳ありません。昨日(9月9日)は、首都圏に非常に強い台風が上陸しました。その影響があり、今日の午前中も欠航があったりするんですね。関係者(お客様)は航空機移動で、朝から大混乱。午前6時過ぎにお電話をいただき予定を聞かれましたが、新幹線移動の私は余裕綽々です(笑)。東京→博多は、新幹線で5時間弱、約1,000kmの行程です。「時間がもったないから航空機で…」という話もききますが、新幹線は荷物を預ける必要がないので意外と楽ですし、移動中も仕事ができるので、急ぎのお客様のご要望にご迷惑も最低限に抑えられます。話は逸れますが、その昔、航空機で福岡空港に行った時のこと。到着して荷物を受け取ろうと思っても、一向に流れてきません。職員の方に確認をすると、1本後の便に乗っているとのこと！ そんなことが日本でもあるんですね。プレゼン資料が入っていたので、移動中に手順の確認をするために持っていた、自分の手書きメモの入った資料を博多駅のコンビニで10数部コピーして、お客様のもとに向かいました。それを配ったので、笑いから始まったプレゼン、いまは良き思い出です。ちなみに、そのとき遅れた荷物は、プレゼン会場まで航空会社がタクシーで届けてくれました。間に合わないから、と断ったのですが、欠航(変換ミス「結構」)かたくなに「お持ちします！」という対応でした。もう意味のないスーツケースなので、宿泊先に届けてくれた方がありがたかった…。さて、話は今に戻り、写真は新幹線での通過中の川です。わたしの周囲でもパソコンで仕事をしている方々多数、これぞ移動の新幹線の有意義な時間の使い方…という「仕事してます」アピールをさせていただきます。これから博多で仕事をして、新幹線の最終便で名古屋に移動、明日の早朝から仕事です。何を言いたいかというと、日本全国、どこでも仕事をします！というアピールです！！ 私に限らず、海外での仕事経験を持つ仲間も多いので、困ったことはまず弊社にご相談を！！ 昔、良く飲みながら先輩と話をしていたが「お金をいただけるなら犬の散歩も致します」という気持ちで、みなさまからのお仕事、お待ちしております。



Project 1.

Producer's column

東京ビッグサイトの新しいホールへ行って来ました！

EXECUTIVE PRODUCER：平田 元春

既に行かれている方もいらっしゃると思いますが、初めて行って参りました。南ホールです。昨年は東ホールで開催されていた「外食ビジネスウィーク 2019」のそば・うどん産業展です。感想から言いますと、駐車場が隣接でちょっと便利、だがエレベータがなかなか来ないです。良い点はホールへの搬入は周囲が屋根下(上階の床下)になるので雨天時に濡れない。台車での往来でも濡れないです。駅からの距離は東ホールと同じくらいでしょうか。1階が1・2ホール、3階が3・4ホール。出入口は、2階と4階です。もう一つ、青海展示場にも行って来ました。お台場海浜公園駅と青海駅が近いです。りんかい線の東京テレポート駅前です。会場バスが有る時は便利です。

Project 3.

PRESIDENT：檀垣 俊吾

軽減税率とポイント還元

ついに消費税の税率が10%になるわけだが、それともない軽減税率制度やキャッシュレス推進策を導入することで複雑になり、結局しっかりわからないままスタートしてしまえそう。これって本来は、それぞれ全く別の目的「3000億円配ってキャッシュレス決済を普及推進させる」と「今後の少子高齢化が進んでも、毎年10兆円の消費税税収を広く国民全体で維持させる」ということであつたはずなのに、後付けの大義名分を作って同時期にやってしまう政府は凄。消費税増税を受けて増税の影響をより強く受ける可能性が高い中小店舗の売上落ち込みを抑えることが主目的としてますが、景気対策のために中小企業を支援するというだけなら、むしろ現金決済を対象にすべきであるように感じる。にもかかわらず行政側がポイント還元対象をキャッシュレス決済に絞ったのは、消費税増税を機に、中小店舗にポイント還元というメリットを与える代わりに、機器導入や決済手数料の負担することによってでもキャッシュレス決済の導入をして欲しいという国の交換条件なのでしょう。実際のところ、なかなか進まない中小店舗のキャッシュレス決済基盤を、増税を機に拡大したかったんだろうと思いますが、キャッシュレス決済の利用促進キャンペーン方法を各社に任せただことによる決済サービスの乱立により、かえって消費者が混乱している状況は変わっておらず、分かりにくさ故にキャッシュレス決済の普及が進まない気がする。我々も軽減税率により経理作業が複雑になることを予想すると、当分の間は全て10%の税率で計算をしておいて、会計士に後で分類してもらうほかない。イートイン、テイクアウトがよく例に使われますが、そこで食わずに持ち帰る場合でも、店舗にテーブル・椅子などが設置されていれば、軽減税率の対象にはならないと国税庁は言っているようなので、今後、「軽減税率かどうかの見分け方」を誰もが分かるようになるのか、注目したいポイントである。

異常気象

第2プロジェクト 弓狩 章裕

夏は暑く、冬は寒いのは当たり前のことですが、この夏も異常気象が止まらず、南フランスでは45℃の熱波を記録し、スペインでは高温で山火事が発生。米中西部のミシシッピ川流域では未曾有の大洪水が発生し、メキシコでは異常な量の雹(ひょう)が1m近く積もったりなど、世界各地で極端な気候・気象状態が頻発しています。これを「過酷な天候」、シビア・ウェザーと言うそうです。日本でも、昨年は「平成30年7月豪雨」が襲い、西日本を中心に記録的な大雨となり、岡山県や広島県など、広範囲にわたって災害をもたらしました。今年に入っても、九州北部で降った猛烈な雨で河川の氾濫や浸水などの被害に見舞われています。気候の穏やかな「四季の国」だったのは遠い昔のことのように、連日の猛暑に集中豪雨だったり、近年になって災害の発生が大幅に増加しています。異常気象の対策は難しいかもしれませんが、日頃から自然災害などについての認識を深め、災害に備え、避難を含めて「命を守る行動」が大切だと感じました。

Project 2.

土井 晃範

Event：オリンピック・パラリンピック1年前イベント

Date：7月末

Place：二子玉川プレイス

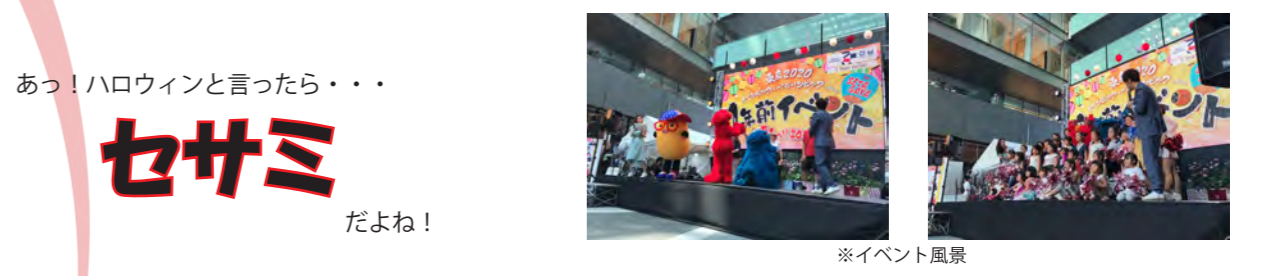
つい先日まで夏バテをしていたと思ったら、驚く程の食欲回復によりお腹のたるみが気になる季節となりましたが、皆様夏休みはいかがお過ごしでしたでしょうか？

私は7月の終わりに、オリンピックに関わるお仕事に携わせて頂きました。気付けば東京オリンピックまで既に1年を切っていて、少し前に世間を驚かせた滝川クリステルさんの「O・MO・TE・NA・SHI、おもてなし」もつい最近の出来事のように感じてしまうくらい時間が経つのは早いものです。

今回 Sesami Workshop 様より依頼を受けまして、世田谷区主催のオリパラを盛り上げる為のイベント「東京2020オリンピック・パラリンピック1年前イベント in SETAGAYA ~夏まつり2019」にエルモ&クッキーモンスターと一緒に参加してきました。二日間に渡るイベントにはお笑い芸人をMCに添えて、元オリンピック選手達をスペシャルゲストとして呼びトークショーを行ったりと多くのお客様で賑わうイベントでした。

当のエルモ&クッキーモンスターとは言えば、オープニングでさっそく登場し会場を温め、その後は可愛いキッズチアとともに会場を盛り上げるお手伝いをさせて頂きました。

セサミストリートは見た目や考え方が違う多彩なキャラクターが登場しますが、オリンピック・パラリンピックに通じるものがあります。日本で開催される貴重な機会をきっかけにして差別のない世界となるように、私達も頑張ります！



Project 4.

PRODUCER：岩下 信而

Theme：映画館に行く

Date：2019年9月

Place：東京

皆様のお陰で、本当に忙しくさせていただいております。おっとこの言い回し昭和だね、そんな時こそ、エンタテイメントだぜ！と、立て続けに観たかった映画を楽しみました。「さらば愛しきアウトロー」原題は The Old Man and The Gun「老人と海」のもじりですね。微笑みながら銃をちらつかせるだけで、決して人を傷つけずに、93件の銀行強盗と16回の脱獄に成功した男の実話を基に作られた、ロバート・レッドフォードの俳優引退作品。年齢83歳のレッドフォードの演技は、小粋でセクシー。往年のケリー・グラント、デヴィッド・ニーヴン(若いみな様はググってね)を彷彿させます。現役では、イーストウッドも良いけれど、こういうシチュエーションでは、相手の口にマグナム突っ込みそう(笑)、テンポはイマイチでしたが楽しめたコメディでした。レッドフォードと言えば、ニールサイモンの傑作脚本、ジェーン・フォンダとの共演「裸足で散歩」。名監督ジョージ・ロイヒル、かのポール・ニューマンとのトリオの「明日に向かって撃て」、「スティング」等エンタテイメントの醍醐味を楽しませてもらった。以降は渋いおじさま役を淡々とこなしながら、プロデューサー、監督(アカデミー賞も受賞)としても活躍。そのレッドフォードのプロデュース作品「リバー・ランズ・スルー・イット」で、レッドフォードの再来と一躍注目されたのがブラッド・ピット。そのプラビとレオナルド・ディカプリオによる4年ぶりのタランティーンが「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド」。これは我慢できなくて、初日に劇場に飛び込んだ。昔むかしの、聖林での事じゃった、常田富士男のナレーションで始まるこの新作は(あ、これ嘘です)落ち目のTVスターが、酒に溺れながらもハリウッドにしがみつく様をアドリブ満載で笑わせるレオ、彼のスタントマンで自然な生き方の親友役を、アメコミ風に料理したプラビ、そして実在の女優シャロン・テート役を、キュートに演じるマーゴット・ロビー(良い！)この3人が、シャロンにまつわる1969年8月9日を迎えるのであった…予備知識として「シャロン・テート事件」があるんだけど、それを知っても、知らなくても愉しめる傑作でした。劇中スティーブ・マックイーンやブルース・リーが登場人物として絡んだり、タランティーンの常連マイケル・マドセン(あのハンサムだけど、ぶよぶよでタミ声の人)も、ちらりと出演、アル・パチーノ演じるプロデューサーが、レオにマカロニウェスタン出演をもちかける掛け合いは、きっとエスニック・ジョークのかな、とタランティーンらしく凝った仕掛けが満載。最近では、以前紹介した「オレンジ・イズ・ニュー・ブラック」など Netflix が面白くて、エンタメ時間をインターネットと過ごしがちですが、観たい映画はやっぱり映画館に行きましょう。ぼくは未だに、今日ご紹介した2作品ともフィルムが目焼き付いています、おっとこれも昭和だね、では次号、C i a o!

